

# 日本語・中国語・ロシア語・韓国語・カザフ語の

## 引用表現に関する対照研究

小野 正樹（筑波大学）・李 奇楠（北京大学）・金 玉任（誠信女子大学）  
シヨリナ ダリヤグル（カザフ国立大学）・牧原 功（群馬大学）

### 要 旨

引用という手段はどの言語にも見られるものであろう。引用の本質は、他者の思考内容や他者の発信した内容を、あくまでも他者のものとして、話者が自者の発話に取り込むことである。本論が提案する I) 発信者中心構造：「A が B に・・・と言った」、II) 受信者中心構造：「B は A から・・・と聞いた」、III) イベント中心構造：「・・・そうです」といった分類方法に基づき、中国語、ロシア語、韓国語、カザフ語との対照を行った。副詞や文末表現との共起、人称制限、用法の点から分析を行った。

キーワード：発信者、受信者、伝聞「そうだ」、主観的副詞、文末表現

### 1. 本研究の考える引用とは

引用は他者の考えを話者の発話の中に取り込む行為だが、表現こそ異なってもどの言語にもあるものだろう。話者は常に自らの思考内容のみを伝えているわけではなく、自分以外の人や、異なる情報源をもとに会話を組み立てている。観点を換えれば、自分の発話内容と他者の発話内容を明確に区別する必要もあり、小説や論文等作成では、著作権やマナーに関わる問題となる。

言語研究では、形式的には直接話法、間接話法といった分類が中心であった。しかしながら、引用表現内容と主節の時制の一致や人称制限を強く持たない日本語では両者の異なりは必ずしも明確ではなく、括弧「」の有無でその違いを示しているにすぎない。先行研究では、「もとの文の発話の場と当の引用文の発話の場という二つの場の、前者を後者の入れ子型に取り組むという形の二重性」（砂川（1987））という構造分析、「投射」という用語を用いて説明した本質論的なもの（藤田（2000））等がある。引用は確かに「話し手が自らの解釈を表立てず極力もとのまま再現しよう」とする「忠実再現」に本質がある。だが、もとの文の発話の話し手（以下、〈発信者〉）とし、対立概念は〈受信者〉とする。）が、引用文の話し手（以下、〈話者〉）とし、対立概念は〈聴者〉とする。）との関係はまだ分析が進んでいない。また、「投射」という捉え方は本質的だが、引用文の構造を、情報構造の観点から話者の態度を見渡せる記述がコミュニケーション上の課題である。

そこで、小野（2011）（本論文集の「日本語引用表現の分類試案」を参照されたい。）では、Chafe and Nichols（1986）の提唱する「証拠性」（Evidentiality）という考え方を紹介して、引用の位置づけを図った。この考えは、文構造を、事態・認識・発話の3つの段階に分けて述べることから始まる（小野（2005））。本研究で扱いたいことは、1) 対照言語としての確立、2) 一文内の引用構造の分析である。

## 2. 引用とは

### 2.1. 聴者への証拠性提示

引用内容は、情報構造の分類上“前提”となることが多く、“主張”と区別しなければならない (Lambrecht (1994))。また、引用した内容に対して、発話者は賛成か反対など聴者に自分の立場を伝える必要がある。そこで、Chafe and Nichols (1986) の提唱する「証拠性」(Evidentiality) という考え方を紹介する。Chafe and Nichols (ibid:261-272) は、言語処理過程から「証拠性」を4つに分けている。表1は矢印の左側のものが活動の根拠になり、矢印の右側がその根拠をもとに行う活動である。引用は、この4つの中で hearsay (聞き伝え知識) に相当する。

表1 Chafe and Nichols (1986) 証拠性の分類

	根拠となるもの		言語主体の関わり方
i	?	→	belief (信念)
ii	evidence (証拠)	→	induction (帰納的推論)
iii	language (言語)	→	hearsay (聞き伝え知識)
iv	hypothesis (仮説)	→	deduction (演繹的推論)

日本語においては、「と」「って」の助詞により、その節が引用節であることが明示される。

(1) 彼女が結婚する。

(2) 彼女が結婚するって。

「って」が付くことで、話者は「彼女が結婚する」ことを他者から聞いた情報であることを聴者に伝えると同時に、「彼女が結婚する」ことが真か偽かは話者の責任ではない態度を示す。これが「信念」「帰納的推論」「演繹的推論」とは性質を異にする。

(3) 彼女が結婚すると思う。

(3) は彼女の「信念」、あるいは「帰納的推論」「演繹的推論」を表すが、現実世界で「彼女が結婚しない」場合には、聴者は話者に対して不信感を抱く危険性がある。しかし、聞き伝え知識の引用文(2)では、話者よりも「彼女が結婚する」という情報の発信者に対して、真偽判断が向けられる。

### 2.2. 引用の構造3種類

本研究では直接話法・間接話法という考えではなく、話者と聴者、〈発信者〉と〈受信者〉といった主体に注目し、引用文の構造をモデル化する。以下では、〈発信者〉、〈受信者〉、{イベント}という用語を用いるが、〈発信者〉と〈受信者〉は、その文の話者や聴者ではなく、引用原点の主体である。発信者中心構造の言語形式には「と言った」「だって」、受信者中心構造には「と聞いた」、イベント中心構造には「そうだ」の形式がある。

表2 中国語・ロシア語・韓国語・カザフ語の引用表現形式

	I 発信者中心構造 〈発信者〉が〈受信者〉に 〔イベント〕と言った。	II 受信者中心構造 〈受信者〉が〈発信者〉から 〔イベント〕と聞いた。	III イベント中心構造 〈省略可能 発信者によると〉 〔イベント〕そうだ。
日本語	彼が私に彼女が結婚すると 言いました。	私が彼から彼女が結婚すると 聞きました。	(彼によると) 彼女が結婚す るそうです。
中国語	他 对 我 说 : 她 要 结 婚 。	我 听 他 说 : 她 要 结 婚 。	听 (他) 说 : 她 要 结 婚 。
ロシア語	Он сказал мне, что она выходит замуж.	Я слышала от него, что она выходит замуж.	Говорят, что о на выходит зам уж.
韓国語	그는 나에게 그녀가 결혼한다고 말했습니다.	나는 그로부터 그녀가 결혼한다고 들었습니다.	(그의 말에 의하면) 그녀가 결혼한다고 합니다.
カザフ語	О л ма га н о л ту р ма с ка шы га ды де п ай т ты	Ме н о да н о л ту р мы с ка шы га ды де п е с ті ді м	О л ту р ма с ка шы га ды

いずれの言語でも三つの引用構造に分類できるが、各言語の特徴がある。例えば、中国語、ロシア語には日本語のような引用を表す「と」格がなく、ロシア語ではчтоという単語が使用される。Чтоは日本語の「何」だが、英語の引用節「that」と同様の用法である。(He told me that...=Он сказал мне, что...) 一方で、言語的に日本語と近い韓国語やカザフ語では、日本語の「と」と同様の引用マーカーがある。カザフ語ではдепというが用いられ、日本語の「と」と同様の役割を果たす。カザフ語の「дейді (言います)」という動詞と共に、「деді (と言った), дейді (と言われている), деген (という), дегендей (と言ったように、と言ったような)」として引用文では用いられる。イベント中心構造の「そうだ」はカザフ語では一語に対応せず、日本語の「みたいです」「ようです」「言われている」を含んだ「шыгады」に相当する。

### 3. 構造分析-モーダル要素との共起-

#### 3.1. モーダルな副詞との共起

引用文とモーダルな要素が共起できるかを観察する。引用構文においてどれほど話者の主観性が含まれるかという判断である。日本語副詞「絶対」、文末表現の「だろう」「かもしれない」に相当する語との共起を観察する。

(4) 《絶対》{彼女が結婚する}。

(4) では副詞「絶対」が「彼女が結婚する」という命題を修飾し、「彼女が結婚する」ことへの強い確信の表明である。以下、《 》の語彙が { } を修飾することを表す。ところが、引用節を伴った発信者中心構造の (5) では「言いました」を修飾していよう。この現象は、受信者中心構造の (6) でも同様である。

(5) 《絶対》{彼は} 私に彼女が結婚すると {言いました}。

(6) 《絶対》私は {彼から} 彼女が結婚すると {聞きました}。

しかしながら、(7) のイベント中心構造においては命題修飾の解釈しか許さない。

(7) 《絶対》{彼女が結婚する} そうです。

「絶対」はモダリティ性の高い副詞で、話者の強い主観性を表す(杉村(2009))。中国語の観察では、「絶対」や「確か」のような中国語モダリティ副詞(“絶対”や“的確”)との共起はいずれも可能だが、“絶対”や“的確”の語順により、修飾先が変わる。

次に、ロシア語の分析である。「絶対」に相当する表現は「абсолютно точно」である。

(8) Она, абсолютно точно выходит замуж  
彼女 絶対 結婚する

(9) {Он} 《абсолютно точно》 {сказал} мне, что  
она выходит замуж  
彼 絶対 言いました 私に 彼女 結婚する

(10) {Я} 《абсолютно точно》 {слышала} от него,  
что она выходит замуж  
私 絶対 聞きました (彼から) 彼女 結婚する

(11) 《абсолютно точно》 говорят, что она  
выходит замуж  
絶対 言われている 彼女 結婚する

ロシア語の「абсолютно точно」は日本語「絶対」と同じ意味で、強い確信を表す。(8) では、「彼女が結婚する」ということを強調する。(9) では「(彼) 言いました」と、(10) では「(私) 聞きました」を修飾する。ロシア語の動詞は語尾で人称により活用変化があるため、(9) 「彼」と (10) 「私」は自動的に動詞からの制約を受ける。一方、(11) 「絶対」が入る蓋然性の高い文では、発信者が明確ではないため、不自然な文となる。

韓国語の例を挙げる。韓国語「절대」も、日本語「絶対」と同様に、(12) (13) では、「言いました」や「聞きました」を修飾するが、(14) では「彼女が結婚する」ことを修飾する。

(12) 절대 그는 나에게 그녀가 결혼한다고 말했습니다.  
jeoldae geuneun na-ege geunyeoga gyeolhonhandago malhaesseubnida.

絶対 彼は 私に 彼女が 結婚すると 言いました。

(13) 절대 나는 그로부터 그녀가 결혼한다고 들었습니다.  
jeoldae naneun geulobuteo geunyeoga gyeolhonhandago deul-eosseubnida.

絶対に 私は 彼から 彼女が 結婚すると 聞きました。

(14) 절대 그의 말에 의하면 그녀가 결혼한다고 합니다.

jeoldae geuui mal-e uihameon geunyeoga gyeolhonhandago habnida.

絶対に 彼の話によると 彼女が 結婚する そうです。

カザフ語の観察である。副詞「絶対」に相当するのが「міндетті」である。記号「\*」は非文法的なことを表す。

(15) Ол міндетті түрде тұрмысқа шығады

彼女 絶対 結婚する

(16) Ол тұрмысқа шығыды деп ол маған 《аңық》  
{ айтты }

彼女が 結婚する と 彼 私に 絶対 言いました

(17) Оның тұрмысқа шығытынын, мен 《аңық》 одан  
{ естідім }

彼女が 結婚すること 私 絶対 彼から 聞いた

(18) a.\* Ол тұрмысқа шығады деп 《аңық》 айтылып жүр  
彼女 結婚する と 絶対 言われている

b. Ол тұрмысқа шығады деп 《рас》 айтылып жүр  
彼女 結婚する と 本当に 言われている

カザフ語の「аңық」は日本語「絶対」と同じ用法を持ち、強い確信を表す。(15)では「彼女が結婚する」ことを強調するが、「міндетті түрде (必ず)」という副詞が用いられる。しかし、引用文になると、「аңық (はっきり、明確に)」という副詞が用いられる。(16)では「(彼) 言いました」と、(17)では「(私) 聞きました」を修飾する。カザフ語の動詞は語尾で人称が明記されるため、(16)の「彼」と(17)の「私」が動詞と同時に修飾される。(18a)「絶対」が入る確立度の高い文では、発信者が明確ではないため、不自然な文である。(18b)のように「рас (本当に)」を使用した方が自然な文になる。

### 3.2. モーダルな文末表現との共起

文末形式として蓋然性を表す「だろう」、可能性を表す「かもしれない」との共起を観察する。「だろう」と「かもしれない」の違いについては、「かもしれない」は話し手が発話時に2つの思考内容を表すことができ、「Aかもしれないし、Bかもしれない」と言えるが、「だろう」では言えないとされている(宮島・仁田(1995:198))。

(19) 泊まるかもしれないし、泊まらないかもしれない。どっちにしても相当おそくなる。

(20) \*泊まるだろうし、泊まらないだろう。

(宮島・仁田(1995:198))

では、引用構造と「だろう」の共起が可能かを見ると、いずれも成立しない。

(21) 彼は私に彼女が結婚すると言った《\*だろう》。

(22) 私は彼から彼女が結婚すると聞いた《\*だろう》。

(23) 彼女が結婚するそう《\*だろう》。

しかしながら、発話時に複数の思考を持ち得る可能性「かもしれない」では、発信者中心構造と受信者中心構造では共起でき、「だろう」と「かもしれない」には違いがある。

(24) 彼は私に彼女が結婚すると言った《かもしれない》。

(25) 私は彼から彼女が結婚すると聞いた《かもしれない》。

(26) 彼女が結婚するそう《\*かもしれない》。

中国語では、日本語の文末形式「だろう」は一般的には中国語の文末の語気助詞“吧”と対応するとされ、(23) 以外の (21) (22) はどれも“吧”と共起できよう。「かもしれない」に対応する中国語の表現は、“可能”“或許”などがあり、文末ではなく、文頭に来るのが通常で、日本語と同じ特徴が見られる。

ロシア語では、いずれも推量を表す《ведь》との共起が可能である。

(27) она 《ведь》 выходит замуж  
彼女 だろう 結婚する

(28) {Он} 《ведь》 {говорил} мне, что она выходит замуж

彼 だろう 言いました 私に 彼女 結婚する

(29) {я} 《ведь》 {слышала} от него, что она выходит замуж

私 だろう 聞きました 彼から 彼女 結婚する

(30) 《ведь》 говорят, что она выходит замуж  
だろう 言われている 彼女 結婚する

日本語「だろう」に相当するロシア語のведьは、高い蓋然性を表し、聞き手にそれを伝えるという役割を持つ。動詞の前に置かれ、(28) では「(彼) 言いました」(29) では「(私) 聞きました」を修飾する。(30) では、発信者が明記されていなくても、「そう言われている」ことを修飾している。次に、「かもしれない」に相当する「Возможно」との共起である。

(31) 《Возможно》, она выходит замуж  
かもしれない 彼女 結婚する

(32) 《Возможно》 {он} {говорил} мне, что, она выходит замуж

かもしれない 彼 言いました 私に 彼女 結婚する

(33) 《Возможно》 {я} слышала от него, что она выходит замуж

かもしれない 私 聞きました 彼から 彼女 結婚する

(34) \*《Возможно》 говорят, что она выходит замуж

かもしれない 言われている 彼女 結婚する

ロシア語の「Возможно」は可能性が低いことを示す。(32) では「(彼) 言いました」、(33) では「(私) 聞きました」を修飾するが、(34) のイベント中心構造では使用できない。

次に、韓国語では、「だろう」に相当する《geos-ida》との共起は起こらない。

(35) 그녀는 결혼할 것이다.

geunyeoneun gyeolhonhal geos-ida

彼女は 結婚する だろう

(36) \*그는 나에게 그녀가 결혼한다고 말했을 것이다.

geuneun na-ege geunyeoga gyeolhonhandago malhaessda 《\*geos-ida》

彼は 私に 彼女が 結婚すると 言った 《\*だろう》。

(37) \*나는 그에게서 그녀가 결혼한다고 들었을 것이다.

naneun geulobuteo geunyeoga gyeolhonhandago deul-eosdda 《\*geos-ida》

私は 彼から 彼女が 結婚すると 聞いた 《\*だろう》。

(38) \*그의 말에 의하면 그녀가 결혼한다고 합니다 것이다.

geui mal-e uihameon geunyeoga gyeolhonhandago habnida 《\*geos-ida》.

彼の 話に よると 彼女が 結婚する そうです 《\*だろう》。

しかしながら、「かもしれない」となると判断が変わり、《moleunda》「かもしれない」との共起は「そうだ」以外は可能である。

(39) 그녀가 결혼 할지도 모른다

geunyeoga gyeolhonhaljido moleunda.

{彼女が結婚する} 《かもしれない》。

(40) 그는 나에게 그녀가 결혼 한다고 말했을 지도 모른다

{geuneun} na-ege geunyeoga gyeolhonhandago malhaessda 《moleunda》

{彼は} 私に 彼女が 結婚すると 言った 《かもしれない》。

(41) 나는 그에게서 그녀가 결혼 한다고 들었을지도 모른다.

{naneun} geuegeseo geunyeoga gyeolhon handago deul-eosdda 《moleunda》

{私は} 彼から 彼女が 結婚すると 聞いた 《かもしれない》。

(42) \*그녀가 결혼한다더라 지도모른다.

geunyeoga gyeolhonhandagohanda 《\*moleunda.》

彼女が 結婚する そう 《\*かもしれない》。

次にカザフ語を観察する。「だろう」に相当するのが、《гой》である。

(43) О л {түрмысқа шығады} 《гой》

彼女 結婚する だろう

(44) О л түрмысқа шығады деп маған {айтып еді}

《гой》

彼女 結婚する と 私に 言った だろう

(45) Оның түрмысқа шығатынын мен одан {есті

п едім} 《гой》

彼女が 結婚すること 私 彼から 聞いた だろう

(46) \*О л түрмысқа шығады деп айтып жүр 《гой》

彼女 結婚する と 言われている だろう

カザフ語の「гой (だろう)」はかなり高い蓋然性を表し、聞き手にそれを伝えるとい

う機能があり、日本語と同様に文末に付く。(44)では「(彼)言いました」(45)では「(私)聞きました」を修飾する。(46)のイベント中心構造の文では使用できない。「かもしれない」に相当するのが、「мүмкін」である。

(47) О л {түрмысқа шығуы} «мүмкін»  
彼女 結婚する かもしれない

(48) О л т у р м ы с қ а ш ы ғ а д ы д е п о л а й т у ы м ү м к і н  
彼女 結婚する と 彼 言った かもしれない

(49) \*О л т у р м ы с қ а ш ы ғ а д ы д е п м е н о д а н е с т і г е н  
«мүмкін»

彼女 結婚する と 私 彼から 聞いた かもしれない

(50)\* О л т у р м ы с қ а ш ы ғ а д ы д е п а й т ы л ы п ж ү р у і «м  
ү м к і н»

彼女 結婚する と 言われている かもしれない

カザフ語の「かもしれない」は可能性が低いことを示す。(48)では「(彼)言いました」を修飾するが、(49)受信者構造や(50)のイベント中心構造でも使用できない。

#### 4. 構造分析-人称の観点-

次の両文を較べると、受信者中心構造(52)は不自然に感じる。

(51) 僕が言ったかもしれないけど。

(52) \*僕から聞いたかもしれないけど。

日本語では受信者構造において、発信者に人称制限があるのに対して、他の4言語では人称制限がないようである。中国語の例である。

(53) 可能 从 我 这儿 听说的。  
かもしれない から 僕 ここ 聞いた

ロシア語の例である。

(54) а. В о з м о ж н о , в ы с л ы ш а л и о т м е н я  
かもしれない あなた 聞きました 私から

б. В о з м о ж н о я в а м г о в о р и л а  
かもしれない 私 あなたに 言いました

韓国語の例を見よう。

(55) 나에게 들었을지도 모르지만  
na-ege deul-eosseul-jido moleujiman  
僕から聞いた かもしれない けど

次はカザフ語である。

(56) а. М е н е н е с т і г е н б о л а р с ы з  
僕から 聞いた かもしれない

б. О д а н е с т і г е н б о л а р с ы з  
彼から 聞いた かもしれない

カザフ語では、(56a)(56b)ともに前置き表現として使用できる。

### 5. 3つの用法の異なり

本節では、ポライトネスとの関わりを指摘する。「先生と約束したが、その先生が約束時間に現れなかった」状況を考えてみたい。記号「#」は構文的には成立しても、発話状況で不適切なことを示す。

(57) 約束した時間に不在であった先生に対して

- a #先生は今日来るとおっしゃいましたが、
- b 先生は今日いらっしゃると伺いましたが、

(山岡・牧原・小野 (2010))

(57a) では「先生」が「今日来るとおっしゃいましたが」を言質にし、〈発信者〉の「先生」を詰問する形式となってしまう。それに対し、(57b) では詰問ではなく、話者もその約束が正確だったかを自問していることを含意しての発話となっているため、〈発信者〉へのフェイス脅かし行為 (Face-Threatening Act) が緩和されると考えられる。ロシア語の例を見よう。

(58) 先生は今日来るとおっしゃいましたが

Вы говорили, что придете сегодня  
あなた 言いました 来る 今日

(59) 先生は今日いらっしゃると伺いましたが。

Я слышала, что вы придете сегодня  
私 聞きました あなた 来る 今日

ロシア語では発信者が明確な場合は、受信者構造ではなく、発信者構造の文が自然であるため、約束した時間に不在した先生に対して、ロシア語では (59) ではなく、(58) が使われる。先生への配慮として、「先生は言いました」の「先生」という主語をなくして、3人称を表す「Говорили」という動詞を使用し、文が作られる。

(60) (・・・) Говорили, что Вы придете  
(誰かが) 言いました あなた 来る

韓国語においても、ロシア語と同じく、発信者構造の文が自然である。

(61) 先生は今日来るとおっしゃいましたが

선생님께서 오늘 온다고 말씀하셨습니다만  
先生は 今日 来ると おっしゃいましたが

(62) 先生は今日いらっしゃると伺いましたが。

#선생님께서 오늘 오신다고 들었습니다만  
先生は 今日 いらっしゃると伺いましたが

カザフ語ではどうであろうか。

(63) a. 先生は今日来るとおっしゃいましたが

Сіз бүгін келемін деп айттып едіңіз  
あなた 今日 来る と おっしゃいましたが

b. 先生は今日いらっしゃると伺いましたが。

Сізді бүгін келеді деп естіп едім  
あなた 今日 来る と 聞きました

カザフ語では、(63a)と(63b)の使用が考えられる。(63a)では、*айттып едіңіз*「おっしゃいました」が、先生への尊重を表す動詞になっていて、場合によって使用できるが、乱暴な感じがすると言える。(63b)のように私が持っている情報(先生は今日来ること)は正しくないかもしれない(先生のせいではない)という文にして、先生に対する配慮を表す文になる。

## 6. まとめ

本研究では、発信者中心構造、受信者中心構造、イベント中心構造という、小野(2011)で提案した分類方法に基づき、異なる言語の対照を行った。膠着語、孤立語、屈折語といった言語の特徴を持ちながら、引用という発話の行為は、いずれの言語にもあり、また、各構造によってコミュニケーション上の働きが異なることを示すのが目的である。さらに、主語の役割から、聴者への配慮とつながっていることが伺える。今後配慮表現との関わりを含めた研究を進めていくことが、引用研究への一貢献になるのではないかと考えたい。

## 主要参考文献

- 小野正樹(2005)『日本語動詞述語文の情報構造』ひつじ書房  
小野正樹・李 奇楠・キム オギム・ショリナ ダリヤグル・牧原 功(2011)「日本語・中国語・韓国語・ロシア語・カザフ語の引用表現と日本語学習者の習得研究」『跨文化交際の日本語教育研究②-異文化コミュニケーションのための日本語教育-』天津外国語大学 599-611  
砂川有里子(1988)「引用文における場の二重性について」、『日本語学』7-9 明治書院 14-29  
杉村泰(2009)『現代日本語における蓋然性を表すモダリティ副詞の研究』ひつじ書房  
藤田保幸(2000)『国語引用構文の研究』和泉書院  
宮島達夫・仁田義雄編『日本語類義表現の文法(上)』くろしお出版  
山岡政紀・牧原功・小野正樹(2010)『コミュニケーションと配慮表現-日本語語用論入門』明治書院  
Chafe, Wallace and Johanna, Nicols (eds.) . (1986) *Evidentiality : The Linguistic Coding of Epistemology*. Norwood, New Jersey: Ablex Publishing Company  
Chafe, Wallace (1994) *Discourse, Consciousness, and Time : The Flow and Displacement of Conscious Experience in Speaking and Writing*. Chicago: The University of Chicago Press  
Lambrecht, Knud (1994) *Information Structure and Sentence Form: Topic, Focus, and the Mental Representations of Discourse Referents*. Cambridge University Press  
呂叔湘・朱德熙(2002)『語法修辭講話』遼寧教育出版社

(小野正樹、筑波大学准教授、ono.masaki.ga@u.tsukuba.ac.jp)

(李 奇楠、北京大学准教授、liqinan@pku.edu.cn)

(金 玉任、誠信女子大学教授、olkim@sungshin.ac.kr)

(ショリナ ダリヤグル、カザフ国立大学講師、argynovna@yahoo.co.jp)

(牧原 功、群馬大学准教授、makihara@gunma-u.ac.jp)